

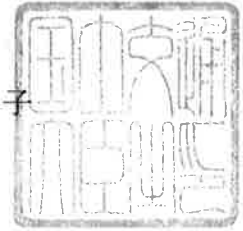
認 定 書

国 住 指 第 2108号
平成15年9月19日

日鐵建材工業株式会社

代表取締役社長 岡田明久 様

国土交通大臣 林 寛子



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項（同法第88条第1項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第2条第七号並びに同法施行令第107条第一号及び第二号（床：2時間（第一号）、1時間（第二号））の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

FP120FL - 0012

2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称

デッキプレート・鉄筋コンクリート造床

3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容

別添の通り

(別添)

1. 構造名

デッキプレート・鉄筋コンクリート造床

2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
床 厚	80 以上

3. 構成材料

1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
①デッキプレート	<ul style="list-style-type: none">・規 格 JIS G 3352 デッキプレート・形 状 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする<ul style="list-style-type: none">(1) リブあり(2) リブなし・厚 さ 1.0 ～ 2.3・山高さ $75_{\pm 1.5}$・働き幅 690_{+8}
②コンクリート	<ul style="list-style-type: none">・種 類 普通コンクリート・呼び強度 $18\sim 60 \text{ N/mm}^2$・厚 さ デッキプレート山上から 80 以上
③引張鉄筋	<ul style="list-style-type: none">・規 格 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする<ul style="list-style-type: none">(1) JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼)(2) JIS G 3117 (鉄筋コンクリート用再生棒鋼)・種 類 (1)～(7)のうち、いずれか一仕様とする<ul style="list-style-type: none">(1) SD295A(2) SD295B(3) SD345(4) SD390(5) SD490(6) SDR295(7) SDR345・断面寸法 D13 以上・間 隔 230 以下・かぶり厚さ デッキプレート下面から 60

(別添-1)

2) 副構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
①ひび割れ防止用鉄筋	<p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) 溶接金網</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS G 3551 (溶接金網及び鉄筋格子) ・種 類 (イ)～(ニ)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (イ) WFP (ロ) WFC (ハ) WFR (ニ) WFI ・断面寸法 φ6 以上、D6 以上 ・間 隔 150 以下×150 以下 ・かぶり厚さ 床板上面から 20 以上 <p>(2) 鉄筋 (異形鉄筋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 (イ)、(ロ)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (イ) JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) (ロ) JIS G 3117 (鉄筋コンクリート用再生棒鋼) ・種 類 (イ)～(ト)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (イ) SD295A (ロ) SD295B (ハ) SD345 (ニ) SD390 (ホ) SD490 (ヘ) SDR295 (ト) SDR345 ・断面寸法 D10 以上 ・間 隔 200 以下×200 以下 ・かぶり厚さ 床板上面から 20 以上
②スペーサー	<p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) 鉄線</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線 径 4 以上 ・間 隔 1000 以下 <p>(2) セメントモルタルブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寸 法 60 以上×45 以上×25 以上 ・間 隔 1000 以下

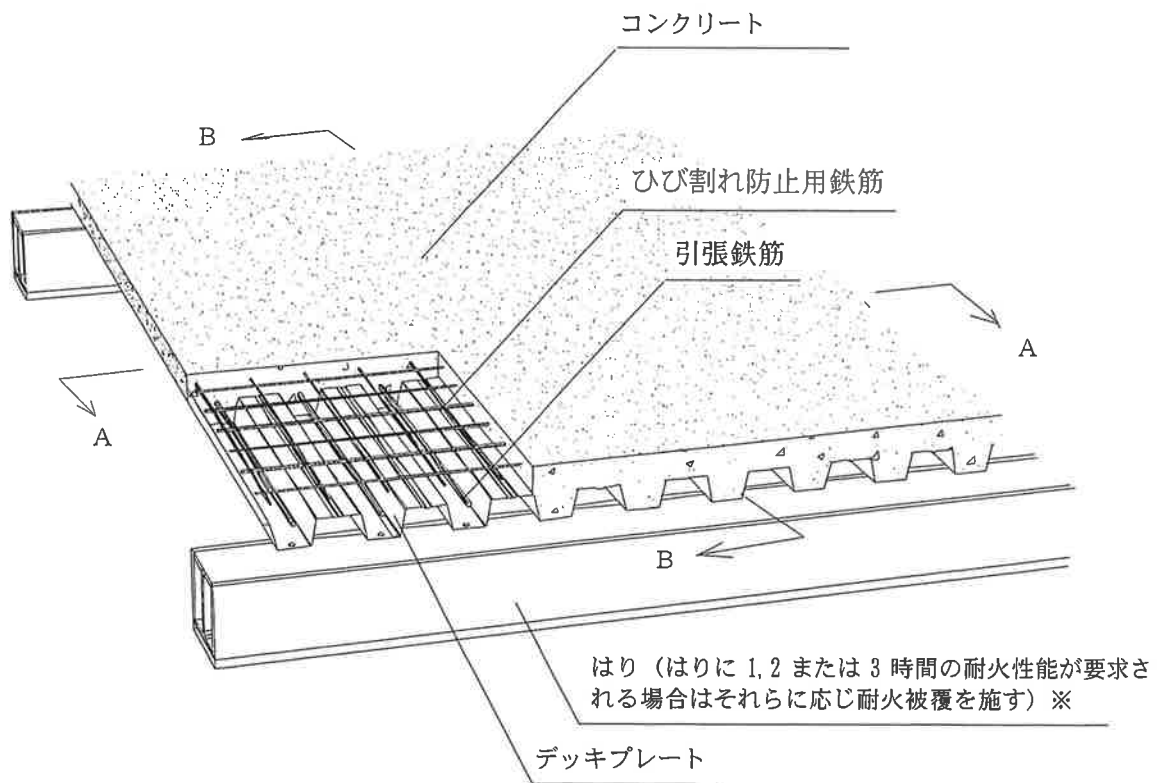
(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
③はりデッキプレート の接合方法	(1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする (1) アークスポット溶接 (2) 隅肉溶接 (3) ドリリングタッピンねじ ・規 格 平成12年建設省告示第1446号 ・寸 法 $\phi 5.0$ 以上 $\times l$ 119以上 (4) 打込み鉋 ・規 格 平成12年建設省告示第1446号 ・寸 法 $\phi 3.7$ 以上 $\times l$ 21以上 (5) 頭付きスタッド ・規 格 JIS B 1198 (頭付きスタッド) ・寸 法 $\phi 13$ 以上 $\times l$ 110以上

4. 構造説明図

[1] 透視図

(寸法単位：mm)

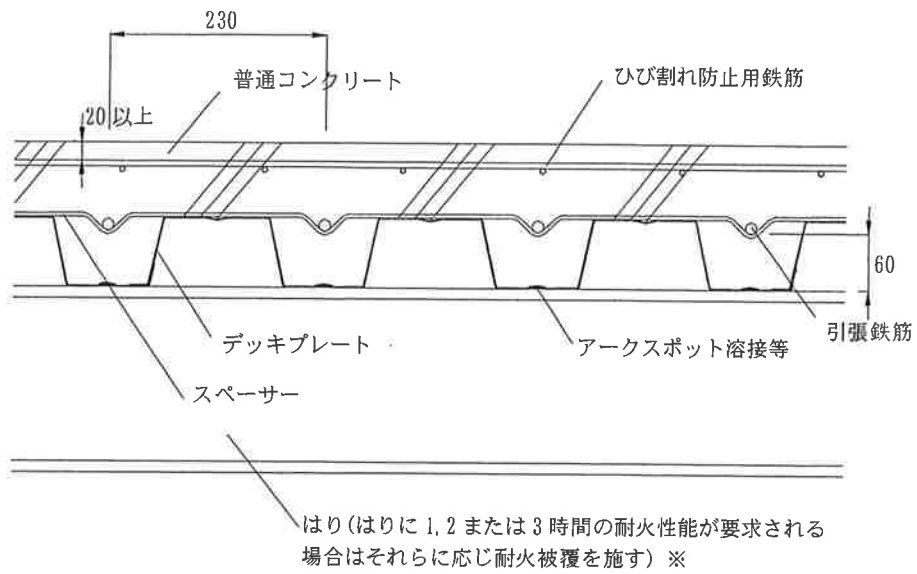


注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

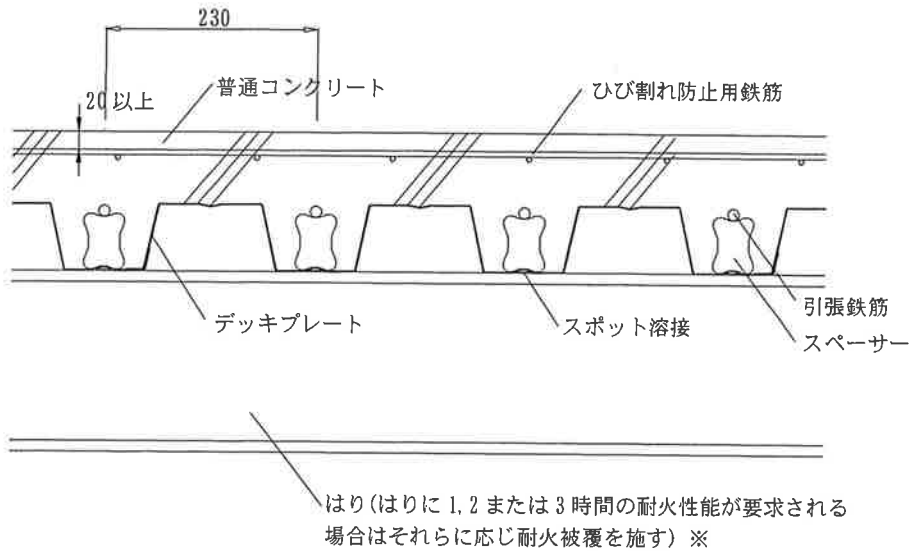
※：本評価内容に含まない

[2] -1 A-A断面図 (スペーサーが鉄線の場合)

(寸法単位: mm)



[2] -2 A-A断面図 (スペーサーがモルタルブロックの場合)

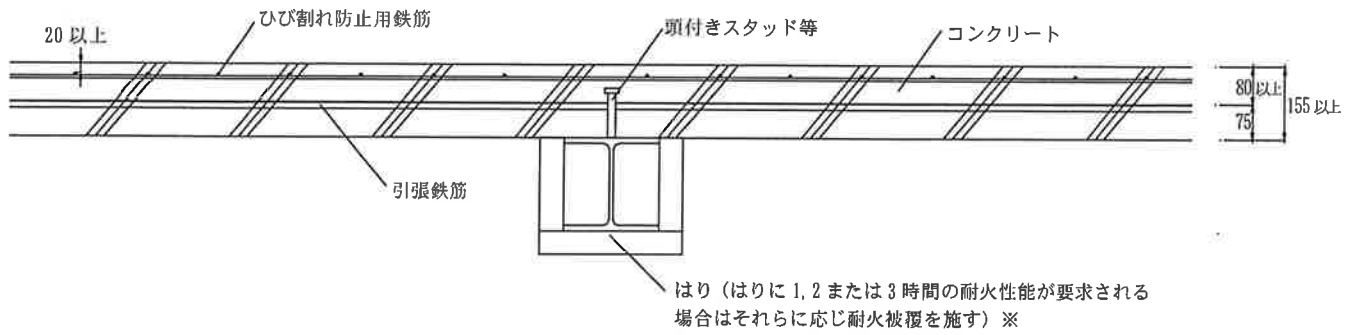


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※: 本評価内容に含まない

[3] B-B断面図

(寸法単位：mm)



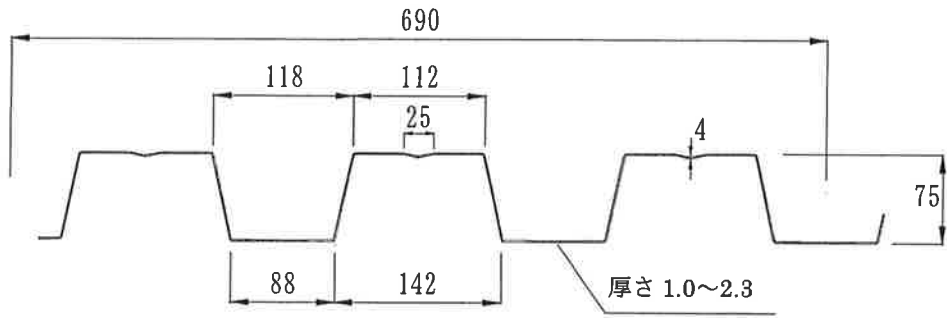
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※：本評価内容に含まない

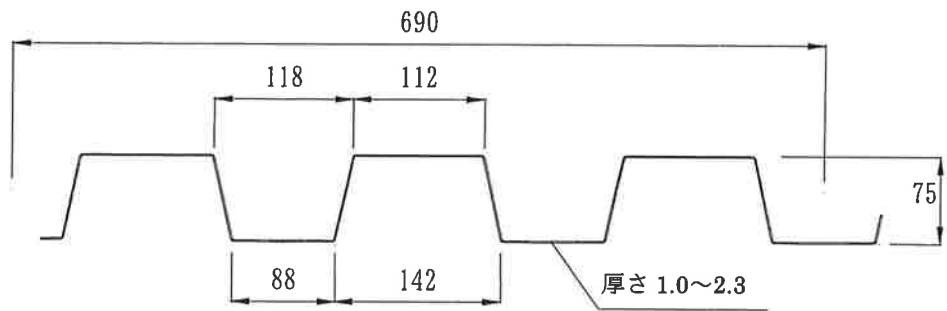
(別添-6)

[4] デッキプレートの形状・寸法

(寸法単位 : mm)



(1) リブあり



(2) リブなし

注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

5. 施工方法等

<施工図>

4. 構造説明図と同じ

<施工手順>

1) デッキプレートの敷込み

割付け計画に従って敷込み、谷部分を溶接等により固定する。デッキプレートの長さ方向の相互は、必要に応じて、その接合部を溶接、ねじ等で固定する。

2) 配筋

デッキプレートの谷部にスペーサーを介して鉄筋を配列する。

3) ひび割れ防止

コンクリートのひび割れ拡大防止のためスラブ上面より約2cmの位置に溶接金網または異形鉄筋を設置する。

4) コンクリート打設

鉄筋が移動しないよう注意しながらコンクリートを不陸なく打設する。

コンクリートの施工については、日本建築学会「建築工事標準仕様書 JASS5 鉄筋コンクリート工事」に準拠する。

5) 仕上げ

コンクリートの表面に金ごて等の仕上げを施す。

6) 養生

施工後の養生は、日本建築学会「建築工事標準仕様書 JASS5 鉄筋コンクリート工事」に準拠する。